

令和3年度 第2回女性応援会議 議事録

日時 令和4年1月25日(火)
午前10時～午前11時30分
場所 市役所5階510会議室

〈参加者〉

委員：渡邊委員(委員長)、芝切委員、深澤委員、渡辺委員
アドバイザー：白井教授
オブザーバー(第一生命保険株)：横溝氏、山崎氏、小澤氏
市議会事務局：川村係長
事務局：佐野市民部長、伊藤市民交流課長、高山女性が輝くまちづくり推進室長、田村主査、古川主事

〈次第〉

- 1 開会
- 2 市民部長挨拶
- 3 新任委員紹介
- 4 報告案件
 - (1) 女性の政治参加における取組
 - (2) 市の女性活躍推進事業の取組
- 5 協議案件
 - (1) 富士宮市と第一生命保険株式会社との地方創生の推進に向けた包括連携における取組
- 6 閉会

〈協議案件〉

【議長】

報告案件(1)女性の政治参加における取組です。このことにつきまして、市議会事務局の川村係長から報告をお願いいたします。

【川村係長】

富士宮市議会では、令和3年7月10月23日までは2名の女性議員がおりましたが、令和3年10月24日に市議会補欠選挙を行い、新たに2名の女性議員が当選し、現在女性議員は4名となり、全体の比率では18.2%となっています。

また、令和2年に富士宮市議会傍聴規則を、それまでは児童及び乳幼児は傍聴席に入ることができない、ただし議長の許可を得た場合はこの限りではないと規定しておりましたが、児童及び乳幼児を連れた方々も傍聴していただけるように改正しております。また、令和3年6月に富士宮市議会会議規則を改正し、議員が会議を欠席する際の届け出について改正

前は事由や休暇日数が不明確でありましたが、出産等について明文化し、女性議員が休暇を取りやすい環境整備を行っています。また、議会だよりを発行しており、令和3年11月1日発行号から市内の高等学校等に依頼し、輪番制で題字と表紙を作成し提供していただいています。これがきっかけとなり、富岳館高等学校から女性議員に対し、学校の取り組みの一環としてキャリア教育の充実やSDGsの理解を深めるために、女性の政治参加について取材の依頼があり、12月21日に取材を受けました。女性議員にとっては男女の固定概念について話ができたとことや、若い世代が政治に興味を持ってくれたことを実感するなど、大変有意義な時間だったと喜びの声をいただいています。この取材内容については、2月1日発行の議会だよりに掲載します。議会だより編集委員会においても、この取材について委員全員がこれまでにない企画で非常に良い取り組みだったと改めて感想をいただきました。

【議長】

ありがとうございます。このことにつきまして何か意見はありますか。

【芝切委員】

女性議員が2人から4人になったことはとてもいいことだと思います。富士宮市は女性議員が少なく、一人もいないこともあったと思いますが、4人まで増えました。つけたすとする、若い女性になってくれるといいですね。やはり女性になるには時間的余裕がある方でないといけないのかなと思います。これを解決するためにも、男性の育児休業を推進したほうがいいと思います。男女がともに活躍する社会が実現して、できれば子育て中の女性が議員になってくれたりするといいですね。

【渡辺委員】

出産等の規定の明文化をしたことは、これからの女性にとっては子育てなど避けては通れないものもありますのでいいことだと思います。女性ということでひとくりにされても人それぞれライフプランであったり世代的なものであったりですので、誰しもが公平な立場で社会に貢献できる状態になっていければいいなと感じました。

【議長】

ありがとうございます。では報告案件(2)市の女性活躍推進事業の取組について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

市の女性活躍推進事業として、一つ目は妊娠出産子育てシェアサポート事業を行っています。

これは、平成28年度に母力応援プログラム事業としてスタートしまして、令和2年度からこの名称で再スタートした事業です。

事業形態としては、市が主催で、運営を市内NPO法人に委託しております。

事業目的は、母親たちの社会復帰、妊娠・出産・子育ての各ステージで生じる悩みや不安

を解消するため、やりがいや喜びを当事者同士で分かち合い、支え合う機会を提供すること、地域全体を巻き込んだ温かな支援のネットワークを形成することで、当事業に係る女性を社会とつなぎ、女性の社会参加や活躍を促進することを目的としています。講座や相談受けて、妊娠出産子育てにかかわる悩みであったり、自身のスキルアップについてであったりとかを解消し、仲間づくりができ、社会とつながった母親たちが社会復帰できるようにしていく内容になっています。

令和3年度は、安心して子育てできる自己と環境の整備を目的にした、親子の居場所(遊び場)の運営、妊娠・育児相談、座談会を行う PLAYDAY を9回開催。女性の社会参加や活躍を促進するため、保護者が子連れでも自分のために時間を過ごせる居場所の提供、講座、キャリア系の相談対応を行う FORMEDAY を5回、実社会での活躍の場を創出することを目的に、乳幼児子育て中の親がやりたいこと、持っているスキルを活用する機会の提供を行う TRYDAY を3回開催しています。支援ネットワークは、「富士宮市子育て未来 LAB.」を活用し、情報提供・情報交換、研修及び交流会を開催しております。

アンケートを取っており、満足度は非常に高いものになっています。また、参加回数を重ねるにつれて満足度がどんどん高くなっていく傾向にあるため、継続性が必要であると考えます。

続きまして、ふじのみやハハラッチ事業の説明をさせていただきます。こちらも28年度から続けている事業になりまして、市内NPO法人に委託しているものです。

この事業は、子育て中の母親たちのスキルアップに繋がる経験不足からの不安、社会との関わりが希薄になりがちであるという不安の解消のため、子育て中の母親たちの書く能力に重点を置いたスキルアップを行い、地域とのかかわりを持つことで社会参加への意欲を高めることを目的にしております。

ハハラッチではブログを運営しており、お母さんたちが興味のあるものを取材し、子育て中のお母さん目線で自分の言葉で表現し、富士宮市を宣伝してもらっており、女性活躍だけでなくシティーセールスとしての目的も持っています。

毎年養成講座を開催し、一般のお母さんをライターとして育成し、市の公認ライターとして認定しています。市のライターとして活動することで、自身の活動に自信を持ち、取材に行くことで地域のお店や人との繋がりを創出し、子育て中の女性の孤独を解消しています。また、長泉町や富士市で同じような事業を行っており、そちらと交流をしています。お互いの地域のいいところを発信するような、大きなエリアでの発信を検討しています。

令和3年度で6期生のライター7名を養成し、総勢41名となっています。記事の掲載件数は今年の1月現在で88記事、サイトの総閲覧数も20万ビューを超えています。

【議長】

何か意見はありますか。

【深澤委員】

弊社のように出身地が様々な方が多い中で、地域に土地勘がなくて、知り合いがいなくてというママがたくさんいまして、会社としてフォローをしています。行政でこういった場

を作っていたに安心を感じます。

【渡辺委員】

スキルアップなど必要な部分を網羅されていると感じました。子育ての孤独感を払しょくするような形でプランが組まれているということに、非常に素晴らしい企画だと思いました。このような事業を積極的にすることにより、子育て中のお母さんと地域とのつながりを密にできて不安が解消されると思いますので、積極的に取り組んでいければなと思います。

【議長】

ありがとうございます。では最後に白井先生からコメントをお願いいたします。

【白井教授】

市や企業の取り組みに対してですが、3月に公式に報告会を開催しますが、今現在、富士市富士宮市の母力向上委員会が県内全域でコロナ禍の育児についてアンケート調査の分析をしています。そこで明らかになったのは、育児休業中の女性のメンタル状態等が目立って厳しい状態である方が少なくないことです。

社会とのつながりを感じられず、育児に向かうことは大変だと思います。無職(いわゆる専業主婦)だった方と違い、日中の過ごし方や、ママ友とのつきあいにも戸惑いがあるでしょう。

こうした状況を考えると、市も、企業も、ターゲットとニーズに合わせて、きめ細かな支援を考えていくのがよいと思います。

【議長】

ありがとうございます。続きまして、協議案件(1)富士宮市と第一生命保険株式会社との地方創生の推進に向けた包括連携における取組について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

当市といくつかの企業様が包括連携の協定を結んでおり、市の女性活躍の分野で何かできないかと検討を行っていき、そうした中で女性活躍に力を入れている第一生命保険株式会社様がこの度手を挙げてくださり、オブザーバーとして参加してもらっています。第一生命様が取り組んでいる内容について、横溝支社長様にご説明いただきます。

【横溝氏】

弊社は、ダイバーシティ&インクルージョンということで取り組んでいます。今は多くの企業さんでこの取り組みをしており、かつては女性活躍でしたが、今は国籍やジェンダーなど、多様性ということに主眼を広げてみんなで成長していこうとしております。

弊社は営業の社員の多くが女性ですので、女性の活躍が非常に重要なテーマでございます。

して、1974年から営業現場では女性の営業部長の登用を始めております。一方、事務職については1997年に初めて管理職の登用が始まりました。専門部署を2009年に設置し、働きやすい環境づくりの充実、2010年ぐらいからは働き方を充実させていこうという段階を経ていました。2019年以降は、女性リーダーの育成に力を入れておりました。働くだけではリーダーは育ちませんので、どうやってリーダーを育てていくかということ、2019年から早期の育成を行っており、今は安定排出ができている状況で、どうやって意識づけしていくかということに主眼を置いています。

多様性を活かす組織づくりとして、まずは一人一人が人財価値向上にチャレンジというテーマで、各個人で成長を目指しています。そして、社員の自律的成長を支えるマネジメント改革というところで、どうやって育成をしていくかという視点。3点目は、ともに尊重し共に学びあい共に成長する風土ということで、組織の作り方をいろいろ考えております。個人と育成する上司、組織の3つのそれぞれにおいて取り組みを行っています。本日は3点目の組織について紹介させていただきます。

現在組織を充実させていくためには、まずは支援制度ということで、支援制度の充実を図っています。両立支援として、家庭との両立という視点と、社員の健康という視点で大きく分けています。具体的にみると、一つ目は育児との両立ということで、産前産後そして復帰についてどうしていくかという視点と男性の育児休業の取得という視点を設けています。二つ目は介護との両立です。長く働いていると男女関係なく介護の問題がありますので、その対応。3つ目はふぁみりい転勤制度として、社内で結婚するが配偶者の転勤があったとき、一緒に異動できるというものです。ウェルカムバック制度というのは、辞めなければならなかった者が、何年か以内には戻ってこられるというものです。テレワークはコロナ禍で推進されていますが、家にいたほうがいろいろな時間が短縮されますので、推奨しています。Myキャリア準備休職は、自分の将来のキャリアを考えて休職できる制度です。QOL向上休暇は、ボランティアとか自己啓発のための休暇も充実しています。健康については、重症化防止ということで当たり前ではありますが、健康診断の受診、特定検診や保健指導の徹底を行っています。最後は、疾病予防ということで、社員の乳がん・子宮頸がん検診の無償化を行っています。

男性の育児参画推進ですが、男性の休業取得率が上がったものの実質は1日とかで形状のものでしかなかったのですが、2022年の4月からは男性が1か月取得するのを100%にしないとしないということで、それに合わせて制度も柔軟化しまして、育休を4回に分けて取っていいという形になりました。

また、女性リーダー育成に力を入れており、若いころから部長や課長を狙えるような人材の育成に力を入れています。結果、弊社の女性活躍推進の現状は女性管理職比率が27.5%となっており、30%を目指すよう力を入れています。一番多いのは営業職で海外も女性活躍は盛んですので、課題は事務職かなと思います。ライン課長やライン部長についてはまだまだ少ない状況です。ですが、グループ会社の除いた第一生命保険だけですと、女性のライン部長は20名ぐらいになりましたので、私が初めてなった2016年ぐらいだと3人ぐらいでしたので、5、6年かけてここまで来たと思いますので、数を増やすということがまず第一かと思います。

最後に、弊社は地域との結びつきを全社重視しており、沼津支社は静岡県東部全体を管轄しており、従業員も480人程度でほとんどが女性ですので、なにか地域の役に立つことはないかなと思いつながりながら活動しています。富士宮市は女性活躍に力を入れているということで、何かお手伝いできないかと考えています。よろしくお願いいたします。

【議長】

ありがとうございました。コラボ内容については、事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】

令和4年度における第一生命様と女性応援会議がコラボ事業をできないかということで、ご提案させていただきます。

令和4年度に、主催を女性応援会議とし、共催を第一生命保険株式会社として講演会の開催を計画させていただきました。内容は、第一生命株式会社の研究員である的場様をお招きし、健康お金つながりを軸とした幸せ戦略から幸せについて学びつつ、自身の活躍について考えるものを検討しております。詳細については、令和4年度の第一回の女性応援会議でご報告する予定ですが、令和4年度の女性応援会議の事業として開催できればと思います。今後、第一生命様と事務局で話を進めさせていただきたいと思っていますので、一任いただければ幸いです。

よろしくお願いいたします。

【芝切委員】

男性は仕事をしながら学んでいく感じですが、女性は仕事以外にもスキルアップの講座があったりとうらやましく思います。こちらは男性の参加は大丈夫ですか。

【事務局】

男性も可能です。

【芝切委員】

男女と一緒に学んだりする機会を増やしていくことが力を発揮できることだと思うので、常に男性のことも考えていただければ嬉しいです。

【議長】

私も事前打ち合わせでお話を伺った際に、男性も参加できるようにしてほしいと要望しました。今回のテーマが幸せですので、男性も女性も多様性の世界で誰でも幸せは共通のテーマになってくるので、女性に限らず男性のためになるいい企画だと思いました。

【深澤委員】

弊社も男性の育児休業の推進をしていますが、一週間取ればいいのか？という感覚ですが、1か月の育児休業を分割してとれるのはいいことだと思いました。

【渡辺委員】

女性活躍が形骸化しているものもありますので、参考になりました。コラボ企画をすることで情報収集ができますので、女性応援会議として積極的に推進できればいいと思います。

【議長】

ありがとうございます。では最後に白井先生お願いいたします。

【白井教授】

第一生命様とのコラボについてですが、力強いコラボをありがとうございます。

全業として非常に先進的な取り組みをしているので、(一般市民へのセミナーもよいのですが)市内の企業へのノウハウ伝達に軸足を置いてはどうでしょうか。

セミナーだけでなく、個別の相談に応じるなど、単発的ではない取り組みをお願いしたいと思います。

【議長】

ありがとうございます。

それでは、令和4年度に第一生命保険株式会社様と女性応援会議が協力して事業を行っていくことに決定したいと思います。よろしくお願いいたします。

【議長】

案件は以上で終了させていただきます。進行を事務局にお返しします。